

麦作技術情報 No. 2

令和3年1月14日
鳥取県産米改良協会

○穂肥

- ・第一回目穂肥の施用時期が早いと精麦率が低下するので時期を守って施用すること。
- ・10月下旬播種は第一回目穂肥を2月上旬とし、気象状況に応じて止葉の葉耳が確認されるまでに第二回目穂肥を施用すること。
- ・11月上旬以降播種は、基準のとおり第一回目穂肥を2月下旬、第二回目穂肥は3月中旬を目安に施用のこと。

○排水対策

- ・定期的にはほ場を観察し、滞水が見られる場合は速やかに排水を促すこと。
- ・明渠と排水溝の連結を定期的に行いましょう。

I 天気概況

1 気象経過

12月上旬までは平年並～高めの気温で推移、12月中旬以降は平年並～低めの気温で推移、平年に比べ降水量(降雪量)が多くなっている。

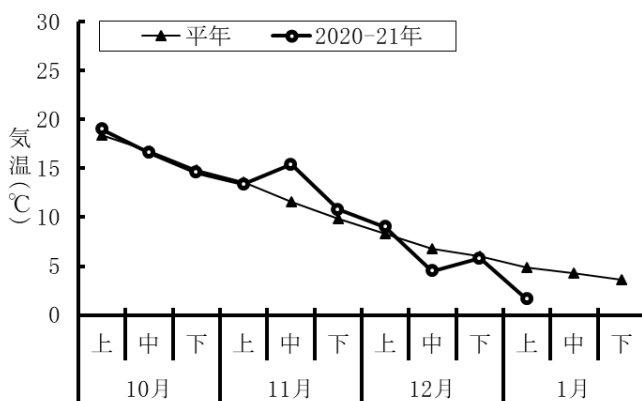


図1 2019-20年日平均気温(倉吉市)

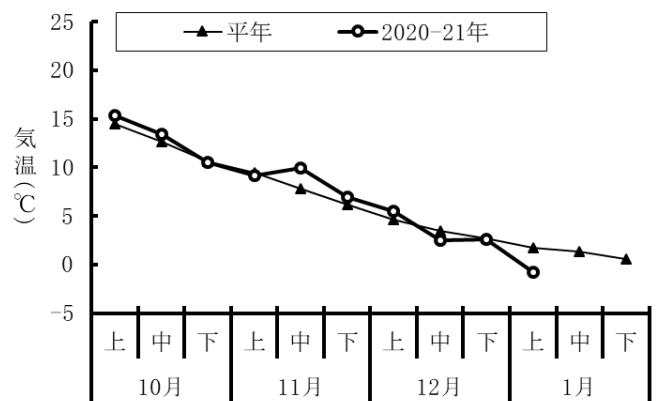


図2 2019-20年日最低気温(倉吉市)

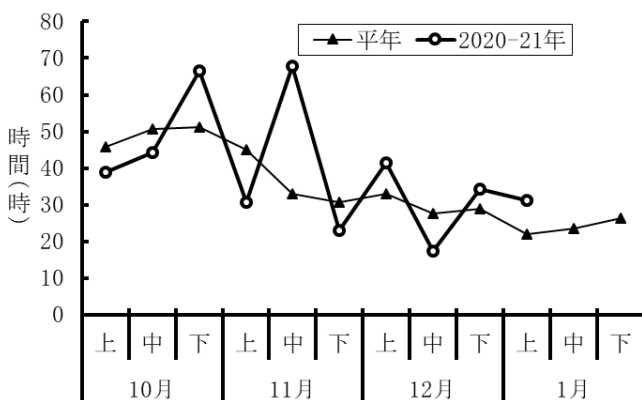


図3 2019-20年旬別日照時間(倉吉市)

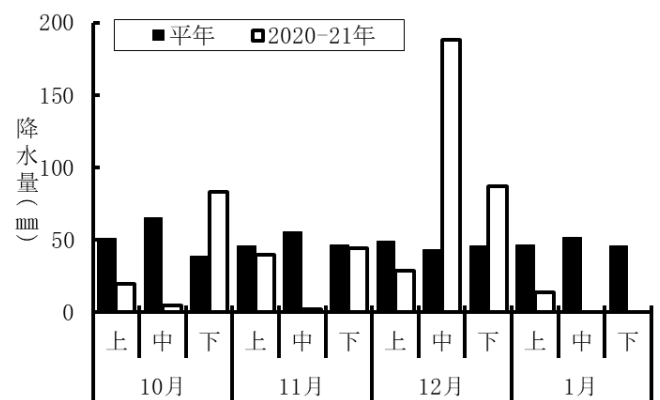


図4 2019-20年旬別降水量(倉吉市)

2 気象予報

中国地方 1か月予報 (1月16日から2月15日までの天候見通し)

令和3年1月14日
広島地方気象台発表

<特に注意を要する事項>

2週目は気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

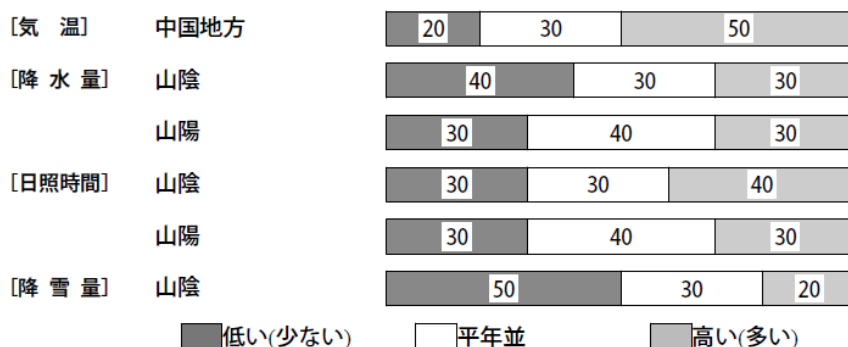
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

山陰では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。山陽では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

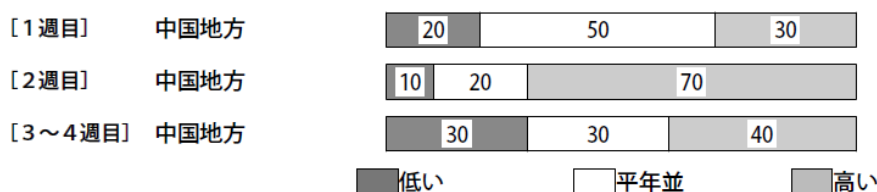
向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。山陰の降雪量は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率70%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 1月16日(土) ~ 2月15日(月)

1週目 : 1月16日(土) ~ 1月22日(金)

2週目 : 1月23日(土) ~ 1月29日(金)

3~4週目 : 1月30日(土) ~ 2月12日(金)

II 生育概況

【現地ほ場】

全般的に出芽と初期生育は順調。12月中旬以降、積雪を伴う低温の影響で生育がやや停滞しており、1月14日現在、積雪や一部滞水がみられる。倉吉市10月28日播種「しゅんれい」は、6.2葉期で幼穂長2mmとなっている。一部で、スズメノテッポウやトゲミノキツネノボタンなどの雑草の発生がみられる。

【農業試験場】

11月6日播種「しゅんれい」においては、1月6日に幼穂形成期を迎えた。近年は暖冬傾向で12月中(過去5年平均は12月27日)に幼穂形成期を迎えていたが、本年は年明けとなった。節間伸長はまだ確認されていない。播種後2か月(1月7日)の生育調査では、葉色、葉齢、茎数は概ね例年通りで進んでいるが、草丈は低く推移している。

表 ビール麦「しゅんれい」における生育の平年比較

令和3年1月7日鳥取県農業試験場

項目	播種約2ヶ月後(1月上中旬)						過去平均比(差)
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
茎数/m ²	993	869	518	653	551	651	91
草丈cm	29.8	26.4	15.4	25.4	25.6	14.4	59
葉色SPAD	35.8	39.2	42.4	35.8	33.3	36.2	97
葉齢	6.4	5.7	5.7	5.4	6.8	5.9	0

IV 技術対策

1 排水対策

- ・雪や雨による滞水が続くと湿害を受け茎数が減少し収量低下を招くことが考えられる。
- ・定期的に排水状況を点検し、降雪・降雨の影響により明渠等が埋まりほ場表面に停滞水が見られる場合は、明渠等の手直しを行い、速やかな排水に努める。

2 追肥

- ・麦の生育状況に応じて、適期適量の穂肥施用に努める。
- ・ほ場で幼穂の伸長程度を経時的に確認し施肥時期を判断する。

穂肥の施用

《施用量》

- ・第一回目穂肥はNK化成C-12で20kg/10a(窒素量で3.2kg/10a)を目安に施用する。
- ・第二回目穂肥はNK化成C-12で15kg/10a(窒素量で2.4kg/10a)を目安に施用する。

《施用時期の目安》

播種時期	第一回目穂肥	第二回目穂肥
10月下旬	2月上旬	気象状況に応じて止葉の葉耳が確認されるまで
11月上旬(1月下旬に幼穂長3mm以下のほ場)	2月20日 (幼穂長2～4mm時)	3月12日 (1回目の15～20日後)

《二条大麦の第二回目穂肥の晩限》

- ・第二回目穂肥の晩限は第一穂肥の3週間後まで(3月中旬頃)の施用であれば、収量・タンパク含量が同等であることを農業試験場・倉吉農業改良普及所(場内・現地ほ場)で確認している。第二回目穂肥の時期(3月上旬)に積雪がある場合は、雪融けし、ほ場条件が整い次第(3月中下旬頃)、晩期施用を行うこと。
- ・止葉の葉耳抽出前を厳守する。葉齢進展が早まる場合は早めの施用を行うこと。

3 除草対策

- ・広葉雑草等は、これから生育量が増加していく。発生が多い場合には、麦の生育や収穫に支障が生じる場合があるので、ハーモニー75DF水和剤等の茎葉処理型除草剤により雑草を抑える。

除草剤の施用①

《除草剤名》 ・ハーモニー75DF水和剤

《対象雑草》 ・一年生広葉雑草、スズメノテッポウ

《施用量》 ・10a当たり5～10gを水100Lに溶かす(単用は7.5～10g施用がメーカー推奨)

《施用時期》 ・播種後～節間伸長前まで、但しスズメノテッポウ5葉期まで

《展着剤》 ・必要に応じて展着剤を加用する

4 病害防除

(1) 網斑病

- ・葉色の濃い過繁茂ほ場では、特に注意が必要である。
- ・発生ほ場では、病気がまん延する前にチルト乳剤25(1,000倍、収穫21日前まで、1回)を散布する(展着剤を加用のこと)。

【参考】農作業安全に留意しましょう

安全対策

農業機械作業

の

見直そう！

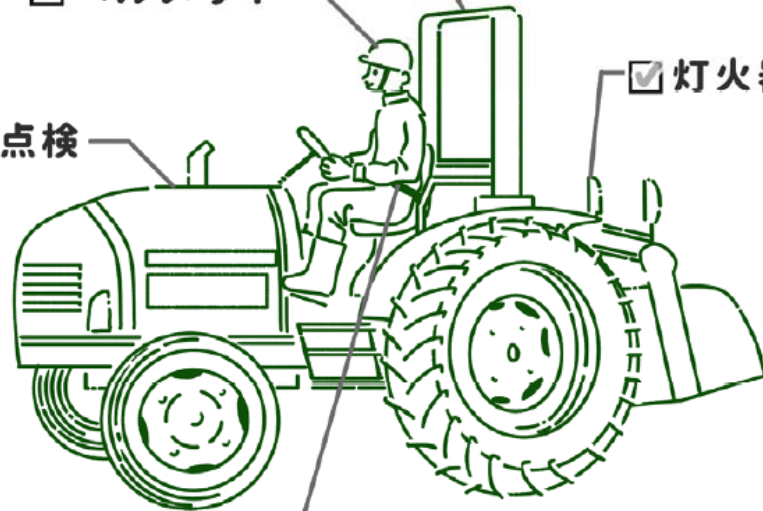
◆農作業による死亡事故は年間約
300件発生しています。

安全フレーム

ヘルメット

点検

灯火器



シートベルト

日常的にチェックする習慣をつけましょう。

デザイン/令和2年農作業安全ポスターデザインコンテスト 農林水産大臣賞 伊藤 沙智

令和2年全国農作業安全確認運動
農林水産省

